

鐵 火

創刊号

共產主義者同盟生化学細胞機関誌

目次

(I) 創刊の辞 1
 蜂起へむけた労働者細胞を建設せよ 2

(II) 生化学斗争の総括 5
 (1) 総括〜夏期一時呈 5
 (2) 反合理化斗争 6
 (3) 冬期一時呈斗争 7
 (3-1) アルゴアイデオロギー、経済主義を
 徹底的に粉碎せよ (政治上の総括) 8
 (3-2) 革命的社研を創出せよ (組織上の総括) 13

(III) 最後に 17

（創刊の辞）

反合理化斗争、冬期一時呈斗争を革命的に闘いぬいた
 総ての生化学的戦士の労働者諸君、

我が共産主義者同盟は生化学に「ブンド細胞を建設した
 こととまず明らかにしたい。

蒲田の敗北から一年、赤軍派の労働同盟からの離脱一
 年半、我が同盟はこの間、激しい党内斗争を展開し、与
 えつやく再建の基礎を固めた。この間の党内斗争は、
 じまるところ権力との本格的な闘いを闘いぬける軍事組
 織をこのようにつくりだすかという点にあり、

我々の立場は、日本においてもそのような軍事組織は
 つくりだすことはできず、又母やそのような軍事組織
 及びそのことなくしては、支那者階級との一切の斗争に
 勝利しえないという点にあり、社会党や共産党はこの
 ような軍事組織を敵対することになり、反革命に転化し
 てくるという点にあり、

この中で軍事組織をつくりだすことは、新たに単一の
 労働者階級をつくりだすことを前提として、その為

は、オーストリアスターレという美名の下に全世界の武装斗
 争に敵対している革マル派を、正真正正に打ち倒すに
 せよ、六〇年代の夢をもう一度と追う中夜派以下、
 大衆運動主義的は統一戦線を築き、蜂起を準備する軍
 一党の下へ結束してゆくことが必要である。その政治的
 立場は、各民族国家の準備軍を解体し、全世界の重要な
 生産手段を集中した世界単一のプロレタリア独裁、世界
 単一政府の樹立である。そのためには、母がなっている

世界単一の指導部、世界単一の軍隊、世界単一の
 軍事斗争を準備せよ、このような方向を突き進
 む臨時革命政府、「帝國主義の侵略反革命を世界革命戦
 争へ」革命政府の樹立へ導びかねばならぬ。この様
 な政治をつくるため、日本人の一切の勢力は、蜂起の
 準備と軍事斗争の推進に集中し、収めねばならぬ。我が同
 盟はこのような政治的立場と軍事を組織する態度としての
 内容をもった本格的な蜂起党にするためには、深刻なイ
 デオロギー的蜂起が必要であった。我が内部のスターリ

ン主義者公松港にむすびつく情況系をたまたま受け取らなかつたし、「反スタ」革マルへの敗北者、日共一派を放逐しなければならなかつた。我がプロレタリアは二月八日の共産党中央政治委員会にて、女工スローガンの元に政治的意志統一を成し、鉄の単一党建設に向けてその巨歩を開始した。

二、反派共斗（ソビエト派）

解体、蜂起をめざす

単一党の建設を

一、スターリン主義打倒

（反スタ）マルクス主義

を解体し、革命的マルクス

レーニン主義を復権せよ

一、世界革命戦争—世界プロ

独を実現する世界党—世界

赤軍を全世界武装斗争の

最前線に建設せよ

一、帝国主義軍隊解体、革命の

① 地政一層の敗
② 赤・神左、2473 軍一隊
③ 102、1131 戦利 6.

プロレタリア
の戦線

正規軍の下へ人民武装を 統合せよ

一、蜂起へむけた労働者細胞を建設せよ

我が同盟は、七〇年代恒常的武装斗争を蜂起し臨時革命政府樹立—内戦—世界革命戦争へ飛躍せしめるために、プロレタリア細胞建設とプロレタリア独裁権力を樹立すべきなりが、この革命党の基本問題を明らかにしたいと考える。

新在野党がたずく我が共産主義者同盟は、五八、六〇年安保斗争の高揚の中、日本共産党とたもとを分ち、新たな革命運動を開始したのである。とりわけ労働者階級の内部では日共との熾烈な党内斗争を闘うことが出来ず、長崎造船、大阪中電、基地区毎委員会の三大拠点を獲得するのみに、多くは一口、八戸田斗争、地区反政青年委員会運動を組織することによってしが本格的な党建設—武装斗争の組織化に着手することは出来なかつたのである。既に昨秋安保決戦においては中央権力斗争—マッロニストとして権力斗争の型を示し、「労働

二五五 結論
スタ、色、理

二五五 結論
スタ、色、理

者自己権力論を基調にして「社労組」運動から出発し、

ソビエトMに發展していった全過程を、その戦斗性

によって、いや安保決戦という政治過程に於いて我々が蓄

積した全力を集中して大阪中電マッロニストライキとし

て明らかにしたのである。だがその敗北と教訓は、反革

命マル派が言う如く裸おどりとがあるいは小ブルジョ

進主義者、政治技術者中核が言う、マッロニストは日知

見主義という主張の中からは明らかにすることは出来ない

。中電マッロニストがその組織内実においても中心に

あり、全党あげて闘ったのであり、党としての斗争

としてあったのである。その教訓は、武装斗争路線の確

立と軍の建設と蜂起と党細胞の任務を提出するの中心を

もって今明らかになるべきである。我々はとりわけこの

問題について包括し、今日我々は「ソビエト型組織」地

区共闘運動の構築として運動を展開せんとする平和見

主義、経済主義者との階級斗争の環として明らかにせね

ばならぬときである。即ち、党形成—階級形成の二

元論的立場はオニズバンドが闘ってきただけであり、二

度と認識してはならぬのである。（党はブルジョア政

府を打倒し、プロレタリア権力を樹立する）

府を打倒し、プロレタリア権力を樹立する）

力を打倒し、プロレタリア権力を樹立する。共産主義社

会を切り崩して行くプロレタリアートの革命的性格の一

切代表する革命家の組織であり、プロレタリア内野の

階級斗争を通じて、この革命家の組織をその深部に建設

し、階級別のプロレタリアートへの影響者である階級系

を打倒して、その党の中心に、プロレタリアートの自然

発生性の一切を体系づけるマッロニストプロレタリアートを

支那階級として形成する道である。こののが我々の包括

である。それはとりもたず、党—軍—闘—つて準備する

べきである。それは世界革命の下、世界政府（単一共和制

）にのみかえられなくてはならない世界プロレタリアの

問題である。政治的には党と軍の階級の問題である。我々はそ

の政治的組織を党建設としてきこており、又権力を

取のプログラムの問題として提出すべきである。

今このマッロニスト派に対する現実的批判を提出し

ておこう。例えは明確、社会、行動委員会を幾方と組織

して、蜂起を待たず党細胞建設、かんずく闘争を組織

し、権力建設がなされるべきである。それは共産党

の権力建設がなされるべきである。それは共産党

の権力建設がなされるべきである。それは共産党

の権力建設がなされるべきである。それは共産党

に於ける蜂起は革命の流産を免れずもたらすであらうとい
うことである。我々同盟はどの様にも工下主義者達と
は無慈悲なまでの党内党系斗争を展開するであらう。だ
が一方我々は今日の彼等の階級組織、工下主義組織
に對しては歓迎するものであり、レーニンの言う「ルー
ズバ組織」としての位置を工下党の下に統合せねばなら
ないと思えてくる。

仲介者諸君。今日の臨時同盟における斗いは「地
區的團結」にその革命性と党系性が獲得されるのではな
く、「蜂起への目的意識性」と「権力を取らねばならぬ組織
実践」細線建設のうちにかうとらねばならぬので
ある。我々は血力にともなう中から、第一の非合法党
建設に於ける細線建設は全てが細線を通じて行われ、強固
論を出している。現在の革命は直線する組織は、強固
は党員の里隊を中核とした非合法党であり、一切の
人民の革命のエネルギーはその中から供給されるので
ある。この原則からの忠告と、それに基づいての組織争
争への敵対は、蜂起斗争をいままの時機には反革命的の行
為である。(以上「蜂起」二五の要約)

(一) 生化学斗争の总结

一二月二八日時間内に三〇分間食ひ込む不当な回数
抜取集束をもって退却故をば全面的に斗い終えた我々
は、根拠地にもどり、我々の理論的武装を完全に成し遂
げ、新たな戦略戦術をうちたて、次の戦斗に奮闘に向
けて我々の戦列をたて直し、我々の弱さを完全に克服
し、足力をあげて「斗争を階級斗争として斗いぬける陣型
を構築しなければならぬ」(この一時同盟は徹底して
(組合の全体的力量より見て)斗かったからこそ、受け
る被害も最小限に止めることができたし、又これ程
までに仲介者全員の創意と工夫に打ちあふれた、又指導
と被指導がこれ程軍事に急進して来た斗いはなかつた。ま
まに創造力あふれる斗いは、未だした斗いはこのこ
とを言うのである。又徹底した斗いは総ての人間から
、その備蓄的エネルギーをば取り、右から左までばつぎ
りと一人一人その姿を赤裸々に暴露せしむずにはおかな
かつたのである。

あの一〇と数有日にわたる強固なストライキは、日々

我々生化学工下組織は右翼は勿論のこと、階級斗争
の到達点をいまえぬ一叩きの工下派(経済主義者時
に総評全国一般民間にあやつらぬその命ずるがままに忠
實に勤めている一部の分子と積極的工業代議院に果敢
う状況系への強烈な党系斗争を通じて彼らに完敗はな
まで下給陣し、文字通り蜂起に向けた強固なる使細胞を
建設し、生化学内の仲介者諸君の顔に高うかた宣言する。

総ての革命的仲介者は
共産主義者同盟の旗の下に
結果せよ。

主張

歴史の趨勢と一一致
・階級闘争と細胞建設の要
・二本立て路線・ストライキの経済
・階級闘争と細胞建設の要
・階級闘争と細胞建設の要

敗退を重ね続けてくる日本の全仲介者に限りなき勇気と
力とを手につつある。早や久里共地区に於ては生化学の
革命的斗いと知らぬ者は皆無に等しく、積極的地区は
勿論のこと神奈川全県に於ても有数の革命的革命的組合
として、七〇年代の階級的労働運動の先鋒を荷っている
と、ても過言ではない。我々はこの斗いの切り崩した
地帯を確と包括し、次の戦斗に向けて我々の血肉と化し
、更に強固で質の高い革命的組合に急進発展すべく、
全面的革命的总结をこころに明らかにしたい。

(一) 組合結成 (夏期一時)

我々は一月二四日我々の住者と仲介条件改善のため
仲介組合を結成した。だがその当時は團結の體が、たが
単にそれだけの目的でしかなく、資本のアカ
攻撃(イデオロギー攻撃)の前に有効なる反法を組織で
きず下、オニ組合の結成を許してしまった。その敗北を
背負いながら我々は組合活動を推進してゆかねばならな
かつた。そして我々にこころは組合というものが最上の
ものであるという組合主義の毒をば飲んでいたがために、民

同的のよりより帝國主義的的の組合活動が
 展開し得たことと、状況であつた。(勿論、二組合は
 組合などと呼ばれる存在ではなく、資本の御用機関であ
 った。) 時に強調しておかればならないことは、我
 々の要求が緻密な論理の専られた的の階級に於けるの
 普遍的利益として作られたといつては、単なる
 自然発生的な即物的なものではないが故に、既に
 又、我々の主体的力量の不足の故に敗北するのは必然であ
 ったとは言えず、要求を途中で下ろしてしまつたという死
 罪の行爲を犯したことを痛苦の怨をもつて自己批判しな
 ければならぬ。(同志同僚が危るや否や知人との執行
 委員は要求を放り出し資本に屈していった。それは要求
 と誰一人として説明し得なかつたといつては、いふまでもな
 い。)

又、総評民間の要求から我々の階級要求と、どういふ階級
 をつらぬかす。革命的の斗争の部野を正統としたことは何れ何で
 も許されるマキシニズムは、我々の階級として自覺のイデオロ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ

どうであらうかは、一時期に於ても我々の要求を
 最後まで貫徹する立場を放棄し、敵が与えた四干円に目
 を奪われ、正のである。

これは我々の力量不足故をもつて仕方なしとマ
 くらう。だが根底的な信託は、まさに組合活動とい
 うものは組合階級をも信じて、革命的階級と無縁な地位
 で行つていこうとするに於ては、我々が知るべきであ
 ったろうし、我々は階級斗争の前進を求むて無縁な地
 点を組合活動を展開し得ないといつては、いふまでもない。
 まり階級斗争を領導する革命党、それに指導される活動
 家集団がなくては、組合活動の真の目的を見失つていこう
 とならぬのである。

70 (二) 反同理化斗争

革命的階級と無縁の地位で、又、民間的あるいはそれ
 以下の組合活動を展開して、階級は必然的に階級の
 要求を遂げ、我々の階級を正統として自覺のイデオ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ

同化を組織し、その階級を正統として自覺のイデオ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ

我々は反同斗争の階級に於て、階級的指導階級の創設
 が成されねばならぬといふことを明らかにした。我々がこれ
 を、我が故に、又時間的余裕の欠如のため、指導階級
 の形成が成せまもなく一時斗争を中止して、我々の
 大衆の自然発生的な怒りは爆発した。それは我々の、資本
 の圧制に対する復讐が、我々の階級を、我々の階級として自覺のイデオ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ

(三) 冬期 一時停止斗争

我々は反同斗争の階級に於て、階級的指導階級の創設
 が成されねばならぬといふことを明らかにした。我々がこれ
 を、我が故に、又時間的余裕の欠如のため、指導階級
 の形成が成せまもなく一時斗争を中止して、我々の
 大衆の自然発生的な怒りは爆発した。それは我々の、資本
 の圧制に対する復讐が、我々の階級を、我々の階級として自覺のイデオ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ
 ジイから、この斗争の階級要求を、我々の階級として自覺のイデオ

組合活動の目的は、階級階級に位置づけ
 112.

Pr. Ide に 屈し
左派の革命に敵対す

略戦術が誤まるとは、決して大衆は階級的に鍛えられ
 (は)ない。民衆の戦術即ち意識獲得から配分斗争へと
 う(要求を最後まで貫徹すること)の目的は条件斗争では
 大衆は力関係さえも把握し得ず墮落するばかりであり、
 階級的対立などいかにお説教をしようとも、わがら
 はくわりのが当り前である。そして自らの戦術の誤まり
 に、又要求の不徹底さに無自覚な彼らは、回答の低い時
 は大衆をそのもてる経験と技術により奮起させ、階級斗
 争は論理ではなく力だなどと説きつうのである。彼らの
 体質は、大衆の自然発生のエネルギーのみに依頼し、そ
 の目的意識の乏しい組織し得ないが故に、つまりもと
 もと彼らは革命とは無縁の存在であるが故に、組織至上
 主義となり、自然発生のに蓋り上っている時はその先頭
 に立って斗争のであるが、大衆が彼らを切りこえ、階級
 的・革命的斗争に奮起せんとする時は絶対に弾圧をなし、
 斗争を正統とするのである。それは反右斗争での民間のな
 したことであり又、生化学的の民間の斗争でも同様であ
 る。つまり彼等は革命的繼承を正統とするため、プロレ
 タリアート内部に走りこまねばならない。ブルジョア

時に彼らは、我々と共闘して右翼を打ち倒すのではなく右
 翼と共闘して我々に敵対するのである。彼らのその日和
 見の、裏切の、中間主義的・右翼的体質は、ある程度実
 践の過程で粉砕したとはいえ、彼等を自覚し得ぬこの
 ありぬはドン・キホーテもは、又再び我々に敵対して
 くるであろう。我々は右翼は勿論のこと、この経済主義
 的組織主義者どもを母市の斗争の中で、ユツパおじんに
 粉砕し尽すだけにはなりたい。

我々にとっては理論と戦術戦術は絶対に切離すべきない
 ものとしてあるのだ。

我々の斗争は経済斗争であったとはいえ、その根柢に
 はまづうことばプロレタリアートの声が発せられていた
 であり、資本とクイデオロギー斗争でもあった。我々は
 組織の弱さを知っている。言うまでもなく個々の仲介者
 はプロレタリアート階級意識で武装してゐるのでなく、
 希人などはブルジョアイデオロギーの持ち主である。
 このブルジョアイデオロギーを根柢からくつがえす所
 イデオロギー(即ち共産主義思想)の確立がまず第一であ

イデオロギーの一変種に代わり得るのである。民間はもと
 はと言え、戦術共産党の指導する差別意識をぶつた
 すべて米帝國主義者によってつくり出されたものであるとい
 う出生の秘密を我々は知らなくてはならない。(差別崩
 壊後は、戦術的部門につき上げられ権威化してはただけ
 のことである)

更に決して許すことの出発点最低の犯罪的行為は、
 展望がなければ、金が流れていからといって敵前逃亡を
 せんとする右翼的執行委員・大衆にのっかり、指導部の
 革命的方針に反対し斗争を裏切ることである。彼らは、
 我々が斗争を組織し、困難な状況にも拘わらず一刻も早
 く組織に有利な条件料を構築せんとしている時に、斗
 争の困難を云々し、かといって具体的方針を提議する
 ことも出来ず、大衆は燃えていけいこののみを云々す
 る。我々はそんなことは百も承知しており、だから故に
 より一層のファイトをもうて頑張るのであり、このこと
 が共産党の任務なのである。こんなものを左翼は断じて
 許すことは出来ないので、我々がブルジョアイデオロギ
 ーを根絶し左翼的の不安定な状態を打破するに闘争して

この思想が我々を打ち倒した党の確立がすべてであ
 る。倫理一時時革命政府樹立(内政)世界革命(外政)が
 世界プロレタリア独裁へ向には社会主義・共産主義へと
 プロレタリアートを組織する所が目的である。我々は
 力不足ながらも以上の視点より党細胞を建設した。我々が
 党細胞は、仲介者階級(即時的要求)であり、何目的の要
 求であり、こちら側の斗争の先頭に立って、斗争・領導
 としてゆくべきである。勿論誤りや失敗は覚悟してお
 り、常に戦術的活動家諸士の批判をおおきく、党細胞を強
 化し、組織を真紅の組織に鍛えあげてゆくつもりである

我々の任務は母市不断に起りくるであろう運動の自然
 発生性との斗争であり、それには依然とてきついな経済主
 義者との斗争である。仲介者大衆自身が彼ら自身の運動の
 行程そのものの間に、独自のイデオロギーをつくります
 とどうかが考えられる以上は、向題は下でこうでし
 かありえない。ブルジョアイデオロギーがそれとて社
 会主義的イデオロギーが、そこには中間のものはない。
 (向敵なら人類はいかなるオミのイデオロギーもつく

左派の革命の
 目的は、
 不助。
 共産主義思想の確立 - 組織
 階級 - 組合の意識 - 立つ。
 文化。

りだせばかつたし、それに又、だいたいの階級矛盾によ
てひきまかかっている社会に、階級外か又は超階級のな
いプロレタリアなどは決してありえないからである。だから
社会主義的イデオロギーのいかなる程度、それからい
かなる離反も、とりもつかずプロレタリアイデオロギー
を強めることを意味するのである。階級運動の自然発生的な
発展はまさに運動をブルジョアイデオロギーに付属させ
る方向に進み、何故なら自然発生的な階級運動とは
組合主義であり、階級組合主義であるが、組合主義
とはまさしくブルジョアジーによる階級者の思想的奴隷
化を意味するからである。だから我々の任務、社会民主
主義者の任務は、自然発生的性と斗争すること、ブルジョ
アジーの庇護の下に入らうとする組合主義のこの自然発
生的反抗から階級運動をひきまかして、革命的民主主
義の庇護の下にひきまかせることである。(レーニン、何
をいすべきか)プロレタリアートの自然発生的闘いは、
強固な革命勢力の組織に指導されるのは、プロレタリア
ートの真の「階級斗争」にはけり得ないのである。

プロレタリアートの闘いである。敵階級より進りこまれば右
翼反動分子を粉砕することである。オニは革命戦争に反
対する諸党派との闘いである。我々は昨秋毎保安成の定
括より、軍建設こそが現代革命の核心であることを知り
、二の革命の軍隊に至人民武裝を統括することを与右の
政治課題としなければならぬ、この定括を以て得ず六の
年化階級斗争への反動的回帰や、大衆の自然発生的に期
待する権者主義者との文字通りの血の階級斗争をなし遂
げ勝利しなれば限り革命戦争に於てブルジョアジーに勝利
することはできないのである。

「先天的な理論に導かれる覚悟だけが前進士士の役割を
果たすことが出来る」と(レーニン)我々は組合運動に於て
大衆を階級として形成してゆくこと、そのための理論と
戦略戦術を正しく提起することにある。そして文字通り
階級斗争として徹底してゆくためには、資本主義社会の
批判と共産主義論がなくてはならぬ。即ち我々は共産主
義論を階級斗争であり此処に提示することはできない。だ
が我々は階級斗争を共産主義社会をその地上に創り出す
ために、それは「共産主義のより高度の段階に於て、
即ち個人が階級に奴隷的従属をうることがなくなる
、それと只に精神階級と肉体的階級とが対立がなくなる
たり、階級が単に生活のための手段たるのみならず、
階級そのものがオニの生活欲求となつたから、個人
の全面的な発展に伴って生活力も増大し、協同社会
の発展のあらゆる長が一層豊に現れ出るようになる、た
り、その初期から、ブルジョア的権利の狭い限界を
完全に脱却しうることで、社会はより旗の上にな
るべきことが出来る。——各人はその能力に応じて、
各人はその必要に応じて、(マルクス)」ところが

「先天的な理論に導かれる覚悟だけが前進士士の役割を
果たすことが出来る」と(レーニン)我々は組合運動に於て
大衆を階級として形成してゆくこと、そのための理論と
戦略戦術を正しく提起することにある。そして文字通り
階級斗争として徹底してゆくためには、資本主義社会の
批判と共産主義論がなくてはならぬ。即ち我々は共産主
義論を階級斗争であり此処に提示することはできない。だ
が我々は階級斗争を共産主義社会をその地上に創り出す
ために、それは「共産主義のより高度の段階に於て、
即ち個人が階級に奴隷的従属をうることがなくなる
、それと只に精神階級と肉体的階級とが対立がなくなる
たり、階級が単に生活のための手段たるのみならず、
階級そのものがオニの生活欲求となつたから、個人
の全面的な発展に伴って生活力も増大し、協同社会
の発展のあらゆる長が一層豊に現れ出るようになる、た
り、その初期から、ブルジョア的権利の狭い限界を
完全に脱却しうることで、社会はより旗の上にな
るべきことが出来る。——各人はその能力に応じて、
各人はその必要に応じて、(マルクス)」ところが

「先天的な理論に導かれる覚悟だけが前進士士の役割を
果たすことが出来る」と(レーニン)我々は組合運動に於て
大衆を階級として形成してゆくこと、そのための理論と
戦略戦術を正しく提起することにある。そして文字通り
階級斗争として徹底してゆくためには、資本主義社会の
批判と共産主義論がなくてはならぬ。即ち我々は共産主
義論を階級斗争であり此処に提示することはできない。だ
が我々は階級斗争を共産主義社会をその地上に創り出す
ために、それは「共産主義のより高度の段階に於て、
即ち個人が階級に奴隷的従属をうることがなくなる
、それと只に精神階級と肉体的階級とが対立がなくなる
たり、階級が単に生活のための手段たるのみならず、
階級そのものがオニの生活欲求となつたから、個人
の全面的な発展に伴って生活力も増大し、協同社会
の発展のあらゆる長が一層豊に現れ出るようになる、た
り、その初期から、ブルジョア的権利の狭い限界を
完全に脱却しうることで、社会はより旗の上にな
るべきことが出来る。——各人はその能力に応じて、
各人はその必要に応じて、(マルクス)」ところが

各人がいかに排他的な活動範囲をもつことがなく、どん
な任務の部門に於てでも自己を陶冶することが出来る共
産主義社会にあっては、社会が完成の生産を規制し、ま
たにそのことによつて私に、今日(今)、明日は我れを
いかに可能性を与えてくれる。つまり個人、魂即ち作者又
は批判者についてどうなることなしに朝には狩りをして、昼に
は魚をとり、夕には魚を飼ひ、夕食の後は批判をす
る可能性である」(マルクス・ドイデ)

「(三ノ二)革命的社研を創出
せよ」(組織上の定括)

我々の一時の階級斗争が真の階級斗争に発展し得るか
った定括は前記の如くであるが、更にもう一つの定括と
して、階級斗争の欠如があげられるだろう。最終過程に
於ては、反階級斗争を階級斗争に闘った階級斗争の諸君こそ
が、闘いの目標を失ひ階級斗争を闘うことは、組合に加
入したばかりの新入社員が非常に階級斗争であつたとい
うことである。では何故階級斗争の諸君が目標を失ひ階
級斗争を闘うにけりし階級斗争を闘うと云ふとどうい
うか

獲得せざるもりである。ただ必要は眞實を自分に着いた
いという意欲がありエエすれば良いのだ。欠陥が免れ
収めていさすればよいのだ。革命の事業では、欠陥を意
識することは収めなければ以上訂正したに等しいのであ
る。(ヘレーニシ、何をなすべきか)

X

我々は一時盛斗争の敗北の息括を真剣にうけとめ、大
衆をプロレタリアートとして鍛え上げる部隊として早急
に革命的「社研」の創設を謀る。そして社研のメーバ
ーが中心となり次回の斗りから総て支前してゆかねば収
はらぬ。ストライキ中はスト実の策を社研が執り
斗り五常に先進的に切り開いてゆかねばならぬ。
スト実には眞に革命的斗争者のみにおよ、て拙い収めれば
ならず、下手なブルジョア民主主義者によつて進出される
べきではない。ストライキとは「戦争の学校」(ヘレーニ
シ、ストライキについて)であり、斗争者が彼人の正制
と資本の正制とから全人民と全勤労者を解放するために
自暴棄の敵に對する戦争を行う道を学ぶ学校である。
戦争を行うには司令部「將校団」兵士の陣型「が布陣す
れば収めはならず、司令部とは党細胞(あるいは党の指

導を委ねられる執行部)に當り、將校団が「スト実」に
當るのである。ストライキは、平時の組織の陣型「執行
部」(「大衆」を戦争のそれにより換へなければ決して
勝利することは出来ないのである。つまりスト中の一切
の战斗の指揮は「スト実」が取るなければならぬので
ある。要約すれば、党「先建的集団(階級)」「大衆の仲
証法的関係を我々は把握していなければならぬ」という
ことである。

だが「ストライキは斗争者階級の自己解放のための斗
争手段の一つにすぎないのである、唯一の手段ではな
く、もし斗争者が他の斗争手段に主意を向けぬならば、
彼らはそれによつて斗争者階級の成長と成功を遅らせて
しまうだろう」といふことも知らなくてはならぬ。
勿論我々は革命家の組織と組織本を混同する事柄がしば
はくはない。経済主義者・組合主義者は常に「此を混同し
組織に党の役割をさせてしまふのである。革命家の組織
は革命的活動を職業とする人々の組織であり、文字通り
ブルジョア権力との熾烈な斗りを闘いぬける組織となら
なければならぬ以上、あまりに単純なものであつてはならず

闘争を開始して行くであらう。それを精研しうるものは我々
だけであり、我々が強くなることによつてのみである。
一掃下りとも思ふことなく、堅力をたくして階級に、斗
争に専念し、自らの体内に集かうブルジョアの残渣を一
掃しなればならぬ。あれだけの革命的斗争をなした
以上、その切り開いた地帯を引継いでゆくには、更に
我々は奮闘しなればならぬ。敵はブルジョアジーは
かりでなく、大衆の中にあるブルジョアジーである。引
開いた斗いには前にもまして更に苦しいものとなるであらう。
その困苦をのりきることにあつてのみ我々は強くなり、
大衆も又鍛えられるのである。

戦争をなすには、大衆を一つの入口「ガ」の下に集束
させなければならぬ。又、指導部内の強固なる意識統一
が必要である。その收めに執行部三役は眞實に同一の人
向が選出されなければならず、その下に定めての執行委員
は結果しなればならぬ。大衆を驚駭させる様な
執行委員や無能な執行委員を選出してはならぬ。執行
部は優秀なる指導能力を理論を併せていなければならぬ
はし、階級意識を根柢としていなければならぬ。その收

（最後）

又秘密が保持されるべきはならぬ。これに反して斗
争組織はできるだけ公衆の目にも見えなければならず、でき
るだけ秘密をなすべからぬ。雇主と政府
に對して斗争するためには組織が必要であることと理解
して闘争者から誰をも組織に参加させても良いので
ある。我々はこの中で一時盛で経済主義者を精研したま
うに、一切の毒をなすべくして行くのである。党細胞と
組織との強化を収めるの何れも懸念するものは存在しない。
「もしわれわれが強固な革命家の組織をしっかりと作り
たてるとからいじめるならば、運動全体に強固さを保障
し、社会民主主義的の目的をも、本来の組織主義的目的
をも、両方とも實現することができるであらう。(ヘレー
ニシ、何をなすべきか)

革命の学校としての「革命」の組織

革命は我々の革命闘争のつくりだし、それを強固に
とにわたるの準備である。四回りの革命闘争で資本は反
革命再編をなすとび、斗争者に對する本格的な反革命攻

戦時的活動家諸君は執行委員に立候補し、組合を革命的
組合にまでたえあげざるを得ないことを要請する。

社研員は労働者でも士族でも常に大衆の先頭に立って活
動しなければならぬ。ただ彼等はプロレタリアートの
解放のために全力を尽すのみである。

「共産主義者は自分の見解や意図を隠すことはいやし
い。共産主義者は、従来の統ての社会秩序を暴力的に転
覆せざるには彼らの目的が達成できぬことを公然と言明
する。支配階級として、共産主義革命のまことの敵標とせ
る。プロレタリアは、この革命によって鉄鎖の紐がけ
失うものを持つた。彼らの獲得するものは全世界であ
る。五箇のプロレタリア団結せよ。」(共産主義宣言)

(一九二二年一月)

